

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第40週 (10/1-10/7) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		40週	39週	38週	37週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	18	15	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	26	27	23	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	10/1-10/7	9/24-9/30	9/17-9/23	9/10-9/16	9/24-9/30
			40週	39週	38週	37週	39週
小児科	RSウイルス感染症		5 0.29	6 0.33	5 0.33	13 0.72	99 0.73
	咽頭結膜熱		1 0.06	4 0.22	4 0.27	7 0.39	32 0.24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19 1.12	20 1.11	22 1.47	34 1.89	200 1.48
	感染性胃腸炎		57 3.35	35 1.94	37 2.47	79 4.39	275 2.04
	水痘		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	21 0.16
	手足口病	◎	40 2.35	15 0.83	15 1.00	26 1.44	144 1.07
	伝染性紅斑	○	8 0.47	7 0.39	5 0.33	4 0.22	53 0.39
	突発性発しん		14 0.82	14 0.78	6 0.40	4 0.22	41 0.30
	ヘルパンギーナ		8 0.47	15 0.83	15 1.00	21 1.17	83 0.61
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.11	1 0.07	1 0.06	4 0.03
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.08	2 0.07	3 0.13	4 0.15	38 0.18
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	4 0.80	5 1.00	3 0.60	41 1.17
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(19件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	20歳代	画像検査	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	40歳代	病原体の分離・同定、 薬剤耐性の確認 及び起因菌の判定	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
				風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	40歳代	抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出等

・第40週は、結核3件(135)、レジオネラ症1件(13)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(15)、百日咳4件(179)、風しん10件(64)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

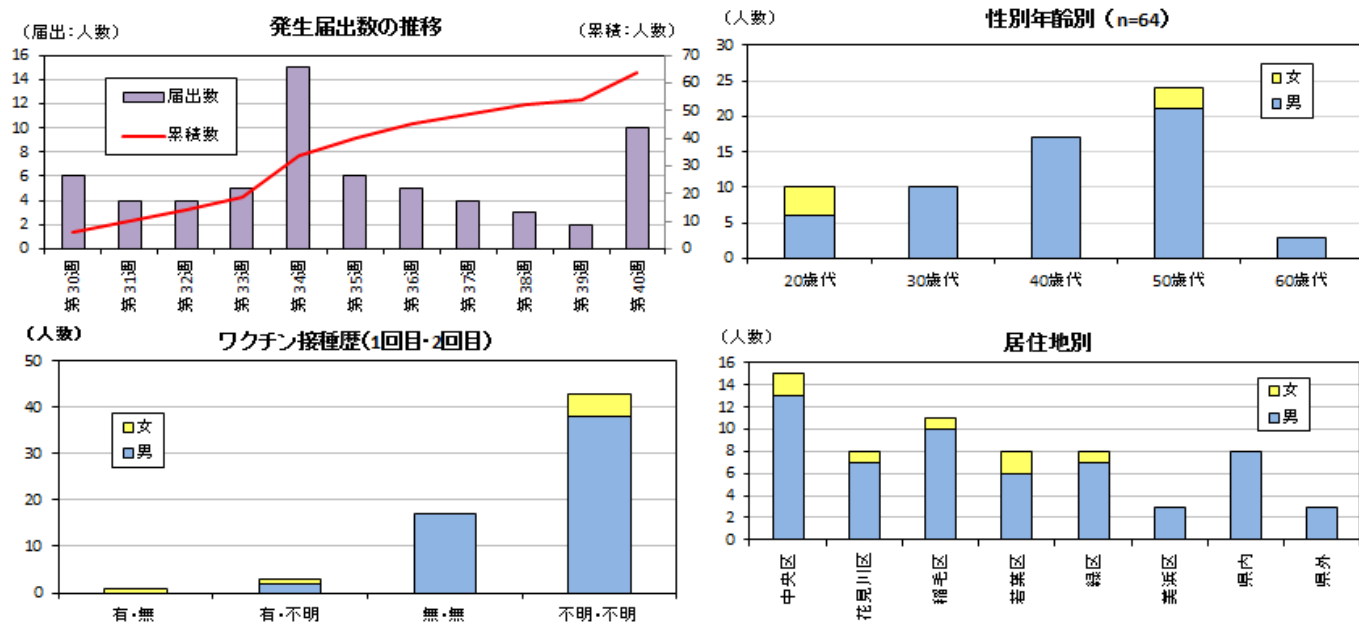
定点当たり報告数 第40週のコメント

＜手足口病＞前週から大幅に増加し、2.35となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜伝染性紅斑＞前週から増加し0.47となった。過去10年の同時期と比べると多め。

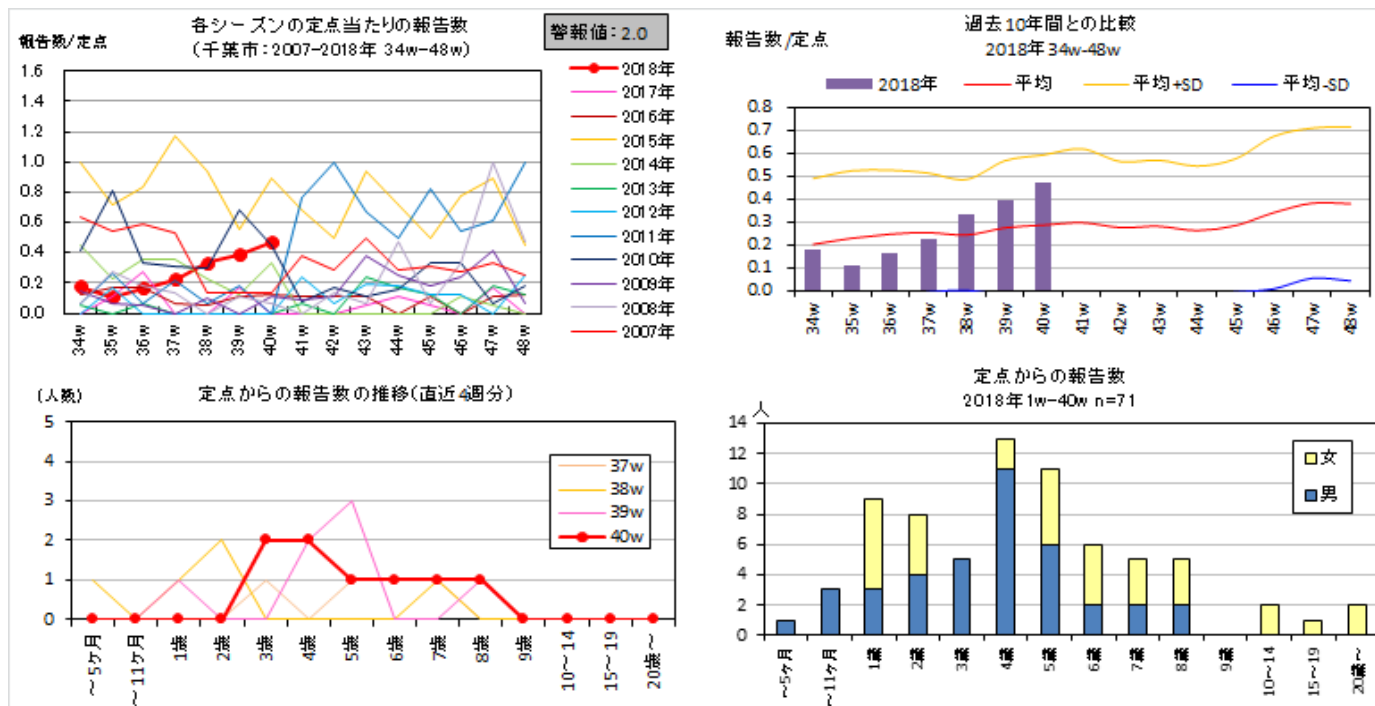
<風しん>

全国レベルの第39週の累積報告数は952件で、昨年の同時期と比べるとおよそ14倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が出始め、第34週をピークに週ごとの報告数は着実に減ってきていましたが、第40週は再び大幅に増加し第34週に次いで多い10件の発生届がありました。2018年の累計は64件となりました。性別では男性が89.1% (57名)、女性が10.9% (7名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代 (37.5%:24名)、40歳代 (26.6%:17名)、20歳代及び30歳代 (共に15.6%:10名)の順で多く、40歳代～50歳代が中心となっています。居住地別は、中央区 (23.4%:15名)、稲毛区 (17.2%:11名)、花見川区、若葉区及び緑区 (共に12.5%:8名)の順で多くなっています。ワクチン接種歴は無し又は不明の症例が9割を超えています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第39週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、東京都、神奈川県の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第36週から連続して増加しており、第40週は0.47となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は花見川区 (1.50/定点)で最多で、同区の3歳、4歳及び7歳で発生報告がありました。2018年第1週から第40週の累積報告数は71件で、性別では男性が54.9% (39名)、女性が45.1% (32名)で、年齢階級別では4歳 (18.3%:13名)、5歳 (15.5%:11名)、1歳 (12.7%:9名)の順で多くなっています。



<手足口病>

全国レベルの第39週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では愛媛県、沖縄県、島根県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第40週は前週より大幅に増加し2.35となり、今年最多の報告数であり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は稲毛区(7.33/定点)で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回り最多で、同区の1歳及び2歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第40週の累積報告数は351件で、性別では男性が54.4%(191名)、女性が45.6%(160名)で、年齢階級別では1歳(33.6%:118名)、2歳(21.9%:77名)、3歳(13.7%:48名)の順で多くなっています。

